

# 「本当の自分」

～願い、目的に生きる！！～

エペソ 2 : 8 - 19

## ■ あなたの本音は本当のあなた？

人前ではいい顔をして、隠れた場所では別人格。もしそんな人の心の声（本音）が周りの人に聞こえてしまったら？・・・その心の声は相手に大きな影響を与えるに違いありません。この話を聞いて私には関係ないと思った人も自分の人生を振り返るなかで、言われることは分かるけれど現実が伴わない状況になったとき、「とはいえ・・・」「でもね・・・」という言葉を中心で聞いたことはないでしょうか？その声の主は誰でしょうか？あなたですか？それともほかの誰かでしょうか？本当は分かっている心とそれを否定する心、その二つ心があるならば、どちらが本当のあなたでしょうか？もし恐ろしい心があるならば、本当の自分を見出すために偽りの声を捨てなければいけません。

## ■ 虚像でなく本当のあなたであるために

もしあなたが本当の姿を見失っているならば、あなたが本音と違って発する言葉で人を傷つけていくようになります。日本には本音と建前という言葉がありますが、この時の本音とはどちらかという悪い言葉、いざというときに出るはならない言葉と捉えられます。そしてそんな言葉がふとしたことで出てしまったとき、その言葉を受けて相手はあなたのことを「この人本当はこう思っていたんだ。信じられない。」という決断してしまうのです。しかし、これらの言葉をどちらが本当の自分なのか、あなた自身が騙されていないでしょうか。本音と勘違いしている言葉はあなたの過去の知識によって作られた虚像のあなたであって本当のあなたではないのです。私たちがとりまくこの世界は戦争や迫害などの過酷な時代背景によって、自分の中に正しい判断はあっても生きるために自分を偽らなければいけない過去を通った人がたくさんいます。シンドラーやマンデラ大統領のように正しく行動できた人もいますが、できなかった人もたくさんいたのです。しかしここで大事なのは、私たちはどんなときも「正しくありたい」という思いを持っているということです。目の前で起きたら実際に行動できるかどうか分からないけれど、そうありたいと願うその心が本物のあなたの姿なのです。神様は私たちが素晴らしく創造され、良心を備えてくださいました。ですから本音は私たちのなかで生きています。しかし劣等感など自分を卑下する思いによってできた偽りの本音が心を覆ってしまうと偽りの自分になってしまいます。私たちの内では常に本当の自分と偽りの自分が戦っており、それが出てきたときにどれだけ制することができるかが大切なのです。私たちの戦いは悪魔に対する戦いでなく自分自身に対する戦いです。悪魔は自分自身と戦うときに誘惑するのを見張らなければなりません、直接の敵ではありません。イエス様が荒野で悪魔と対峙したときも、悪魔と戦い勝利されたのではなく、自分の肉の欲と戦い勝利されたのです。このように私たちも本当の自分を知り、勝利していかなければいけないのです。私たちは人からの評価を気にするのではなく神様の目的に生きる生き方、マンデラ大統領が言った「魂の管理者」として生きる必要があるのです。

## ■ 1 本当の自分に戻るといふ願いをもつ

ピリピ 4:6 に『何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。』とあります。私たちはまず願いがないと願えません。願いがあってはじめてその願いを達成するために目的を果たそうと努力するようになります。例えば美味しいパネケーキが食べたいと思った時、あなたはそれを願望だけで終わらせるのでしょうか。それともそれに関する情報だけを集めて終わらせるのでしょうか。そうではなく一番美味しいところを探して食べに行き終わらせるのではないのでしょうか。そのようにまず願うところから始めましょう。そしてそのとき神様の前になにも思い煩わず願って行動し、過去の経験や

知識による偽りの価値観をもった自分に惑わされず、本当の自分を取り戻しましょう。また Iヨハ 5:14-15 にあるように神様に願った願いは神様にすでにかなえられたと信じましょう。あきらめた瞬間に願いは終わります。そしてエペ 6:18 にあるように正しいことをさせまいとし、誘惑する悪い声にだまされないよう心の目を覚ましていましょう。

## ■ 2 知識から知恵へと願う

「～ならぬ様に」から「～したい」に

私たちは「～ならないために」という願いをすることが多いです。それは過去のことから得た知識によって願ってしまうことで、これではうまくいきません。なぜならその人の知識でしかこの事柄を見ようとしなないからです。あなたの願いがもしも「～ならぬ様に」であるならばそこから脱し、「～したい」という夢を持ちましょう。神様は私たちに志を与え、良い行いをも供えてくださると聖書にあります。誰かのために「～したい」という思いを神様からいただきましょう。そこにもし、あなたに人前で心と実際の心と二つの心があるならば、ヤコブ 1:5-8 にあるように信じて願ったことに疑いを持つという二心を取り去りましょう。

## ■ 3 召しに生きる (IIペテ I:5-10)

神様はあなたに使命を与えました。あなたは人生を正しく生きることができれば、困った人がいたときになにかしてあげたいと思う心があること、間違っている問題に気づく心があることを知っています。あなたはそこに生きなければいけません。IIペテ 1:8 に『役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません』と書いてあります。私たちの劣等感は、「どうせ私は役に立たない、実を結ばないなをやってもうまくいかない」と思わせますが、それは『あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。』という部分が足りないからなのです。そしてそれを完成させるには『熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい』といわれています。そうすれば私たちは召しのために生きようと思えます。そしてそれは絶対にうまくいきます。神様を信じ、1、2のポイントができるようになると自分の存在意義が分かるようになり、努力から愛に至る行動ができるようになり、すばらしいあなたになるのです。その秘訣は召されたことと選ばれたことを信じなさいということです。神様が私たちを選んだのです。あなたでないといけません。だから負けないで信じて生きましょう。

## まとめ

多くの人が人から評価、特に否定的な評価を受けて育ちました。そして私たちの多くが人のせいで生きています。しかしそうなる全てを決断したのはあなたです。歴史的な著名人、多くの先人たちは人からの評価に屈せず自分の信念を生きました。あきらめず目の前の現状に流されなかった人生を送った先人のようにあなたの目的に生きましょう。そして何も思わずらわず、私たちの願いごとを神様に知っていただき、感謝をもって祈りをささげ、あきらめず自分は変われると信じて神様の導きに従いましょう。外れた道を歩んでいるならそこから帰り、本当のあなたの道をまっすぐに歩む人生へとしましう。

(要約者:平澤 瞳)